

農を活かした健康福祉の里づくり事業

発行日:2024年7月

編集・発行:北中城村役場 農林水産課

住所:北中城村字喜舎場 426-2

電話:098-935-2260

FAX:098-935-5536

【健康・福祉の里プロジェクトとは】

- 農を中心とした「食・育・観・住」連携による健康・福祉の里づくりとして4つのテーマに関する取り組みを段階的に進めることで「北中城みらいづくり」の実現を目指します。
- 具体的な施設整備等は、4つのテーマに基づき、6段階に分けて進めていきます。
- 現在、第一～第三段階の事業者が決まり、第一段階は、施設整備が進んでいます(以下写真)。



令和6年7月時点

本事業で達成すべき4つのテーマ

- 1) 村農産物やエネルギーの地産地消/6次産業化商品
- 2) 農を活かした心身の健康増進
- 3) 村内外に北中城の魅力を伝える観光・体験型の場
- 4) 農を中心とした人と人との交流ある村での暮らし



バイオサイクルセンター(第一段階の事業)の建物がまもなく完成します!

- ・バイオサイクルセンターは、約560㎡のR軽量鉄骨建で、側面がスケルトン(透明)という特殊な建物です。
- ・建物内にはゴミ処理設備・堆肥製造設備・液肥製造設備・微生物培養設備・集中管理事務所が一体的に整備され、電力を地産地消する環境にも配慮した建物です。
- ・6月26日には北中城村議員も視察に来られ、施設の有効活用や防災・教育への連携などの開業後に向けた活発な意見交換が行われました。
- ・8月からは各種設備や機器の搬入設置を開始し、10月頃からの試験稼働を目指します。
- ・電気は、村内から排出される生ごみを活用して発電して事業区域内で利用し、停電時も施設運用を停止する事ができるよう整備しております。
- ・また、堆肥や液肥の活用方法について、ご意見を募集しています。



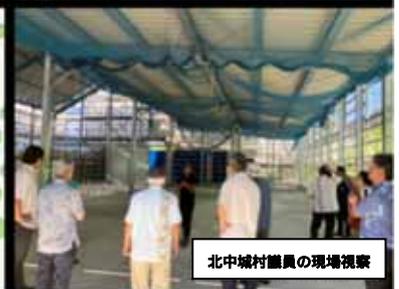
バイオサイクルセンター外観



バイオサイクルセンター内部



第一段階整備配置図



北中城村議員の現場視察

バイオサイクルセンター(第一段階の事業)とは?

- ・第一段階事業者の株式会社EM研究機構により、工事が進められています。
- ・中央のバイオサイクルセンターでは、バイオガス発電を行うとともに発電後の排出物を活用し、堆肥や液肥などの副産物へリサイクルし、村の有機農業の推進に役立てる計画です。
- ・本事業では、食・農・エネルギーの地産地消を進め、持続可能な村づくりを行っていきます。



視察団が来村しています！

- ・日本初となる電力地産地消型の一体型施設は全国的にも注目されています。
- ・先進地ということで、既に自治体や国内外の関係者ら5カ国11都道府県から約500名の視察者が村を訪れています。
- ・特に食品残渣で発電と堆肥・液肥ができ、ゼロウェイストとする点は、循環型社会に向けて画期的な設備との意見をいただいています。
- ・今後も世界に向けて情報発信を行う予定です。



これから搬入される発電設備やプラントの紹介

- ・食品残渣が搬入されると、まず破砕別設備でスムージー状にし、発酵層でメタンガスを生成します。このガスを利用して電力を作り出します。
- ・その際に処理物として発生する消化液を、微生物を活用して液肥と堆肥にリサイクルします。これまでバイオガス発電の欠点であった消化液を活用できる画期的なシステムです。



教育との連携は今年度から始まっています。学童農園で三育小学校の子ども達が学んでいます。

- ・隣接する沖縄三育小学校では、教育の一貫である「三育タイム」の中で、学童農園体験や環境学習について学ぶプログラムがEM研究機構によって実施されています。
- ・第一段階事業地内には農業を学ぶ為の学童農園が整備され、子どもたちは農薬や化学肥料を使用しない有機農業を安心して安全な環境で学んでいます。
- ・また、環境学習においては専門的な知識を有する職員を派遣し、「微生物」や「バイオガス発電の仕組み」などの講義を全校生徒に実施しており、保護者様から好評をいただいております。



出典・参考：沖縄三育小学校ホームページ

【村からのお知らせ】

- ・第一～三段階は、事業者により検討が進められています。村としては、第四～六段階についても、地権者のみなさまの意見を聞きながら、本事業を進めたいと考えております。
- ・地権者の皆さまには、アンケート等にご協力いただけるようお願いいたします。

【もっと知りたい方へ】

- ・令和6年1月16日(火)より、村役場のホームページで「農を活かした健康福祉の里づくり事業」の紹介が始まっています。
- ・「事業概要」からは、第一～六段階の詳しい計画を知ることができます。

